

# 昭和34年の2号トンネル

南側の入口を撮影。2号トンネルは現在、保線作業道路（立入禁止）のトンネルとなっている（写真提供／愛岐トンネル群保存再生委員会）



散策道のかたわらに、トンネルなどからの出土品が展示されていた。線路を固定した犬釘などが多い



6号トンネル入口のアーチを構成する迫石（せりいし）。7重になっているのは、全国でもここだけではないかという見解も



散策道の最寄駅となっている定光寺駅。川に面した断崖絶壁に張りつくように建っている

公開区間は、現在1・7キロ。今は途中で行き止まりになっている道を、さらに古虎溪駅方面へと延ばしてゆくことが、NPOの現在の目標になっているのだという。

「一般公開では、各地から自然を愛するお客さまが訪れてくれます。この道を使ってミニコンサートを開催したこともありますし、これからはアート展なども開いてみたい。大切なことは、私たちがどのようなビジョンを持っているかなのだと思います」と村上さんは語る。

短い軌道跡は、今は人々が集うコミュニティの場となっていて、昔と違う形で人々の暮らしとつながっている。



秋の一般公開時に1個500円で販売予定の「汽車土瓶」。かつて駅弁とともに販売されていたお茶の容器を模したもの

## MEMO

**愛岐トンネル群** 春と秋に3～6号トンネルが一般公開されています。今年秋の公開は11月22～27日の9時30分～14時（閉門は15時）。雨天中止。見学料100円。受付場所は中央本線定光寺駅から徒歩3分。一般公開の問い合わせは、愛岐トンネル群保存再生委員会 ☎080・9492・5458（11月27日まで）

### 観光の問い合わせ

春日井市観光協会 ☎0568・85・6244